

金融経済概観

金融市場動向

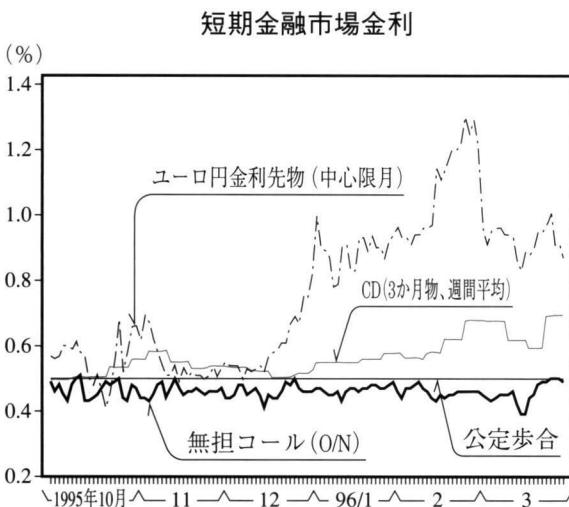
— 平成8年3月 —

(平成8年4月16日)

1. 短期金融市場

3月中の無担コール・オーバーナイト物レートは、概ね公定歩合をやや下回る水準で推移した。CD（譲渡性預金）3か月物レートは、月初の0.7%台から月末には0.5%台後半に低下した。ユーロ円金利先物（3か月物、金利ベース）は、月初から月央にかけてやや低下したが、その後は概ね安定的に推移し、0.9%弱の水準で越月した。

コール・プロパー手形市場資金平均残高（全国）は、40兆6,759億円と前月（38兆380億円）に比べ増加した。

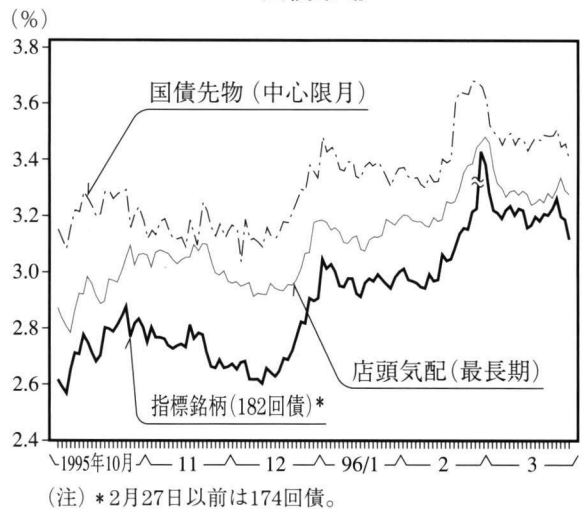


2. 資本市場

3月の長期国債利回り（指標銘柄利回り）は、市場における金利先高観の後退等から月初から

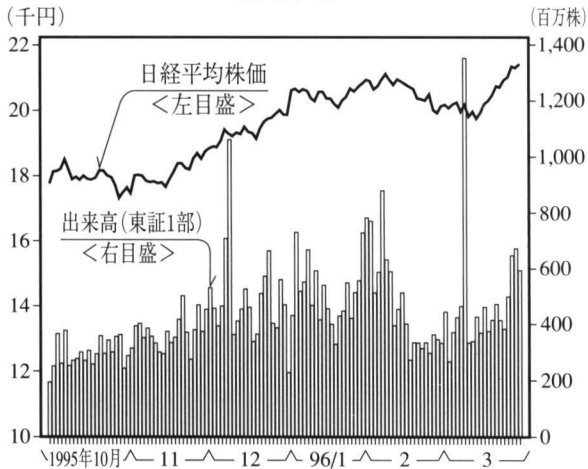
月央にかけて低下したが、その後は概ね安定的に推移し、3.110%で越月した（前月末3.385%）。国債先物中心限月利回りは3.391%（終値119.48円）で越月した（前月末3.628%＜終値117.40円＞）。国債の出来高は、現物（店頭取引）、先物ともに前月を下回った。

既発債市場利回り
— 国債市場 —



3月の株式市況（日経平均株価）は、上旬は国会審議の難航等を背景に下落したが、その後は金利の低位安定期待や為替相場の円安化等を背景に上昇し、結局、21,406円と前月末（20,125円）を大きく上回って越月した。株式出来高（東証1部、月中1営業日平均）は、4.87億株（速報）と前月（4.74億株）を上回った。

株式市場



3月の国内公募普通社債は、金利底打ち感の強まり等から、引き続き高水準の発行となった(2月8,570億円→3月5,500億円)。一方、国内エクイティ市場での発行(3月払い込み分、増資を除く)は、前月の大型起債の反動等から、発行額が減少した(2月4,500億円→3月670億円)。

3. 外国為替市場

3月の円の対米ドル直物相場(東京市場)は、

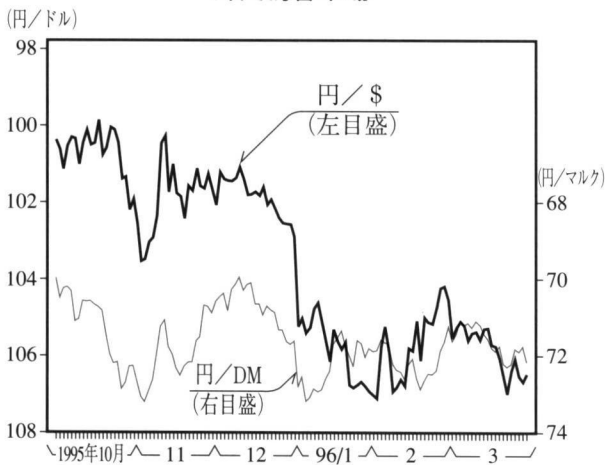
月前半は概ね105円台で推移していたが、その後は一時107円台まで軟化し、106.49円(17時時点)で越月した(前月末104.58円)。円の対独マルク直物相場(東京市場)は、円/ドル相場の軟化につられる形で弱含み、72.18円(17時時点)で越月した(前月末71.22円)。

この間、東京外国為替市場の出来高(円対米ドル、直物および先物・スワップ計、1営業日平均)は218.6億ドルと、前月(241.4億ドル)を下回った。

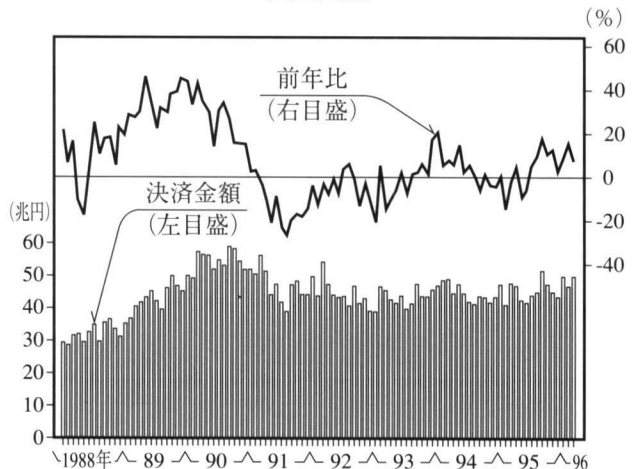
4. 決 済

3月の資金決済の金額(1営業日平均)をみると、手形交換高(東京)は前年同月を下回り(前年比△1.5%)、全銀システム取扱高は前年同月を上回った(同+7.5%)。この間、外為円決済交換高は前年同月を上回った(前年比+9.1%)。また、国債の決済金額(1営業日平均)については、移転登録、振込口座振替ともに前年同月を上回った(移転登録:前年比+2.7%、振込口座振替:同+1.1%)。

外国為替市場



決済金額



(注) 1. 1営業日平均。
2. 手形交換高(東京)、全銀システム取扱高、外為円決済交換高の合計額。

5. 資金需給、金融調節

3月の資金需給をみると、銀行券要因は1兆2,258億円の不足（前年同月4,061億円の不足）となったが、財政等要因が5兆9,853億円の余剰（同4兆9,579億円の余剰）となったことから、全体では4兆7,595億円の余剰（同4兆5,518億円の余剰）となった。

こうした状況下、日本銀行は売出手形等により資金を吸収した。

4月の資金需給（国債発行織り込み前）を窺うと、銀行券要因は月中6,000億円程度の不足（前年同月9,249億円の不足）となる見通しであり、財政等要因は、受入面で申告所得税を中心とする税揚げ等が見込まれるものの、支払面で公共事業関係費や地方交付税交付金の払いが嵩むこと^{かさ}から、9兆200億円程度の余剰（同8兆4,762億円の余剰）となる見通し。この結果、全体では、8兆4,200億円程度の資金余剰（同7兆5,513億円の余剰）となるものと予想される。

6. マネーサプライ、銀行券、預金・貸出

2月のM₂+CD平残前年比伸び率は+2.8%（速報）と前月に比べ0.3%ポイント低下した。また、広義流動性の平残前年比伸び率は+3.7%（速報）と前月に比べ0.2%ポイント低下した。

3月の銀行券平残前年比は+10.0%と前月（+9.5%）に比べ上昇した。

3月中の金融機関の預金・貸出動向をみると、預金平残（実質預金+CD、都銀、地銀、地銀Ⅱ）の前年比は+3.4%と前月に比べ0.2%ポイント低下した。一方、総貸出平残（都銀、長信、信託、地銀、地銀Ⅱ）の前年比は+2.2%と、前月比横這いとなった。

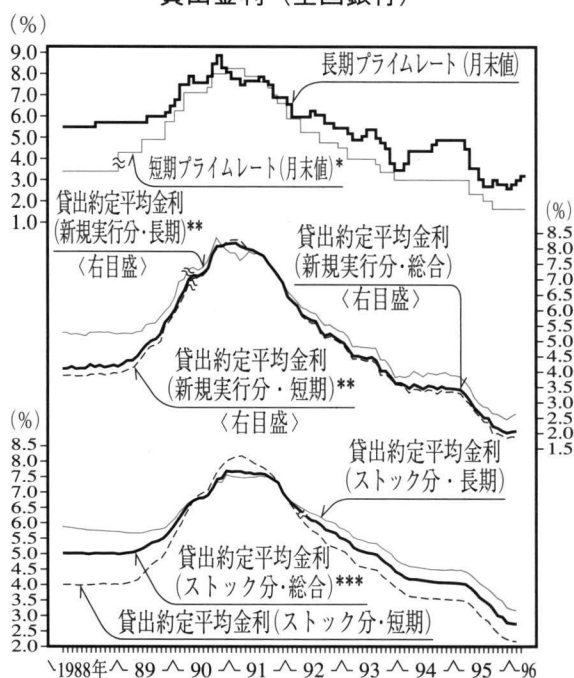
7. 貸出・預金金利

2月中の貸出約定平均金利（全国銀行）をみると、新規実行分は、短期は低下（前月比△0.007%）したが、長期（同+0.085%）が2か月連続で上昇し、総合でも2か月連続の上昇となった（同+0.015%、1月2.069%→2月2.084%）。

また、ストック分については、短期、長期、当座貸越ともに低下し（短期：前月比△0.020%、長期：同△0.025%、当座貸越：同△0.003%）、総合では32か月連続で既往ボトムを更新した（総合：1月2.749%→2月2.729%）。

この間、2月の定期預金金利（1千万円以上、3か月以上6か月未満の全銀新規受入金利平均）は、3か月ぶりに前月に比べ上昇した（1月0.468%→2月0.498%）。

貸出金利（全国銀行）



（注）* 1989年1月以降は都市銀行の中で最も多くの銀行が採用した金利。

** 1990年4月以降は地方銀行Ⅱを含む。

*** 1992年4月以降は当座貸越を含む。

（調査統計局）